

目黒稻門会会報



(題字:眞仁田 勉 初代会長)

第83号 2019年6月

発行人:後藤 克彦 編集長:猪名川 一雄 事務局長:金井 豊男
事務局:〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684

設立20周年記念総会・祝賀会のご案内

2019年目黒稻門会定時総会ならびに20周年記念祝賀会を下記の通り開催いたします。会員の皆様にはご多用中と存じますが、是非ともご参加頂きますよう、ご案内申し上げます。

第1部定時総会では、2018年度事業実績報告、同決算報告および監査報告、2019年度事業計画案、同予算案等の審議を予定しております。

第2部の懇親会では、当会の設立20周年を祝い、皆で楽しめる企画を予定しております。令和を迎え、新たな時代の出発に集い、夏の熱気に乗せて大いに語り、大いに飲み、早稲田の絆を深めたく存じます。ご家族おそろいでのご参加を歓迎いたします。

既にご購入済みの方は20周年記念Tシャツ、ボロシャツを着用してご参加ください。

記

- 日時 2019年7月7日(日)
受付開始 15時30分
総会・懇親会 16時~19時
- 会場 ホテル雅叙園東京
2階「華しづかの間」
目黒区下目黒1-8-1
TEL 03-3491-4111(代表)
- 交通 JR山手線、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線、目黒駅下車徒歩5分
JR目黒駅東口より毎時5分、25分、45分発、ホテル雅叙園東京より毎時0分、20分、40分発のホテルバスが運行されています。
- 会費 会員10,000円、家族5,000円
当日会場受付にてお支払いください。
当日キャンセルの場合、予約の都合上、会費のご負担をお願いいたします。
- 出欠 会報に同封のハガキにて6月17日(月)
までにご連絡ください。

(笠谷 記)

<目黒稻門会設立20周年記念祝賀会のお知らせ>
第2部懇親会において設立からのモットーである『楽しく、明るく、元気よく』をテーマに全員参加の催しを企画しました。

【予定企画】

1. 目黒稻門会20年アルバム(スライド放映)。
「そうだ、あんなことがあった」「そうそうあのときに……」
2. 「めぐろオヤジフォーク」演奏。
カラオケ部員のリードで全員でフォークソング、嗚呼！目黒川、応援歌を歌う。



3. ピンゴ大会

全員参加のピングーゲーム。従来、目黒稻門会は真面目な?会員が多いため新年会・総会ではゲームに類するイベントを行ってきました。今回、景品も当たる楽しいゲームを敢えて行う予定ですのでご期待ください。

各部会からの案内・報告

麻雀部会

1 第78回定例大会は4月15日(月) 武藏小サンにて12名参加しました。優勝は大久保氏、準優勝は本田氏、3位は村上氏でした。

2 第79回大会は6月17日(月) サンにて12時30分スタートで開催します。奮って参加ください。

麻雀部会長 鵜野洋治

食べ歩き部会

泡酒で乾杯、南部地鶏を楽しむ会

3年前の1月に岩手の銘酒「南部美人」で南部地鶏を楽しむ会を開催し、ご好評でした。

今回は2月25日(月)にJR山手線大崎駅より徒歩5分の「南部どり・大崎店」で「南部美人」から発売された泡酒というスパークリングワインのような日本酒(720mlで4,860円と高価なため、乾杯時にしか口にできませんが)と「南部美人」をはじめとするお酒と南部地鶏や岩手の新鮮なお刺身を楽しみました。参加者は11名でした。



食べ歩き部会長 猪名川一雄

俳句部会

第116回 萩句会

日時 4月8日(月)14時~17時

(順不同)

川井素山	都会の巣探がす燕のパスワード
保井寶正	ひやひやと桜隠しの嵐の風
佐久間喬	花冷えや待合の椅子浅く掛け
丸山醉宵子	山門をくぐり燕は仁王門
菊地崇之	瞬くや軒の燕ぞ昭和なり
吉田啓悟	のどかなるものに赤べこ牛のかほ
青木英林	あめんぼう自由気儘に軌跡描き
山本草風	中空に鳴き声おいて落雲雀
渡辺鯨波	春の塵手塚治虫のベレー帽
後藤克彦	春耕や畝ひと筋に力尽き
永井正孝	軒深く忘れず来たりつばくらめ
金森純女	目刺し焼く夕暮れ長くなりにけり
佐久間たか子	何か見ゆ地蔵のほほに春の風
青葉ひかる	散る里に燕來たりて頬に風

俳句部会長 佐久間 喬

ボランティア部会

1月の目黒区サクラ基金寄付に続き、2月には「NPO 法人世界の子供にワクチンを日本委員会(JCV)」に寄付を行いました。



3月8日(金)午前9時半に10名の会員が田道ふれあい橋に集まり、昨年末同様目黒川沿道清掃作業を行いました。



ボランティア部会長 小杉 哲

さん月会

2019年3月開催例会より、暫定的に第3月曜日から第4月曜日に変更し、参加者増を図りました。その効果がありましたので、第4月曜日開催に固定化し、部会名を「よん月会」に変更します。大いに飲み語る会を多くの皆さんのご参加を得て盛り上げて頂きたくお待ちしています。第4月曜日18時からです。



さん月会部会長 村山 弘

ウォーキング部会

新緑の季節。いよいよウォーキングに絶好の時期です。健康に気を付けながら、楽しく、のんびり歩きましょう。初参加の方、女性の方も大歓迎！

実施報告

2月例会 羽村取水堰と多摩川を歩く第2回
日時 2月19日(火) 参加12名

3月例会 武蔵野三十三観音巡り第7回
日時 3月19日(火) 参加12名

4月例会 九品仏浄真寺から立源寺まで
日時 4月16日(火) 参加15名

<3月例会に参加して>

2019年3月19日(火)、武蔵野三十三観音巡りシリーズ第7回に参加した。JR川越線高麗川駅に集合し歩き始める。途中、路傍の民家や畑に咲く水仙や梅の奇麗だったこと！

先ず靈巖寺(真言宗智山派)の岩盤に立つ観音像もさることながら、畑の中でここだけ何でこんな大きな岩が！不思議に感じる人たちが、自然の力に畏怖してこの寺を建てたのでしょうか。

その後、8世紀初頭、戦乱を逃れ高句麗から一族郎党1,799人を率い、大和朝廷から与えられたこの地に入った高麗王若光所縁の高麗神社と、彼の菩提寺である聖天院勝樂寺(真言宗智山派)を回って勝音寺へ。高麗神社には、戦前・戦後の要人や韓国系の団体の記念樹が沢山ある。往時の大和朝廷と朝鮮半島との往来の密な様を思い、その時代の東アジアの政治版図から、時を経て一方的に歪んだ現代の彼我の意識のずれなどに、暫し想いを馳せ何んだ次第。

勝音寺は臨済宗建長寺派のお寺です。寺の隣り、木立の先には高麗聖書教会の十字架が微かに見える。まさに仲良く共存、かなあ、であればよいのだけど。勝音寺近くの栗坪停留所からバスで西武線飯能駅まで出て帰路についた。
(吉野 記)



聖天院勝樂寺の山門前にて

今後の予定(小雨決行)

5月例会 鎌倉古道を歩く

日時 5月21日(火) 午後1時

集合場所 西武国分寺線小川駅改札外

6月例会 東京ゲートブリッジから展望を楽しむ
日時 6月22日(土) 午後1時

集合場所 JR京葉線・東京メトロ有楽町線・りんかい線 新木場駅改札外

7月例会 御嶽神社・雪谷八幡・洗足池を歩く
日時 7月16日(火) 午後1時

集合場所 東急池上線御嶽山駅改札外

9月例会 玉川上水跡の緑道を歩く
日時 9月17日(火) 午後1時

集合場所 京王線上北沢駅改札外

10月以降は、武蔵野三十三観音巡り 第8回、神田川支流(蟹川)などを予定しています。

6月より、部会長は牧野武夫から吉野博明に交代します。参加される方は下記までご連絡下さい。

ウォーキング部会長 吉野博明

携帯 090-1880-3515

ご希望の場所があればご一報ください。参考にさせて頂きます。

囲碁部会

定例囲碁部会は毎月の第三木曜日午後1時より5時まで、下目黒住区センター第2会議室にて開催されています。

3月29日(金)に大隅タワ-校友会サロンでオール早稲田囲碁祭世話人会議が開催され、定例部会以外の大会日程が決まりました。

第19回オール早稲田囲碁祭 6月1日(土)日本棋院市ヶ谷本院

第19回稻穂会囲碁大会 9月15日(日)新宿天元
第58回オール早慶囲碁は開催が中止された。

第38回大学親善囲碁大会 9月8日(日)日本棋院市ヶ谷本院

<大学親善囲碁大会実施要領>

目的 日本棋院大学支部をはじめとする大学関係者の囲碁愛好団体の交流・親睦を図る。

午後12時30から17時45分

競技区分 無差別戦およびハンディ戦

競技方法 各大学プロック別チーム対抗リーグ戦(3回戦)

なおオール早稲田囲碁祭は団体戦で目黒は2チーム10人で参加を予定している。稻穂会囲碁大会は個人戦で1年間の努力を試す良い機会になると思います。

囲碁部会長 保井正

カラオケ部会

2月8日（金）に開かれました定例カラオケ部会には久し振りに二桁の10人が参加しました。3月8日（金）の部会の参加人数は7人と少なかったので、4月7日（金）に出しました部会案内では、食事がバラエティ豊かであり、料金もプラチナクラブの会員になった為一割引きだと訴え、4月12日（金）の参加者が増えるものと期待しましたが、8人に留まりました。

カラオケ部会長 奥村忠男

美術・歴史鑑賞部会

「手塚雄二」展鑑賞

実施日：3月13日（水）

実施場所：日本橋高島屋本店8F ホール

参加者：9名

内容：手塚雄二画伯：現代日本画壇を牽引している作家の一人。1953年生まれ。

故平山郁夫に師事し、西洋技法を取り入れ新時代の日本画といわれている。

東京芸大在学中に院展に入選。

美術・歴史鑑賞部会長 永井正孝

早稲田スポーツ観戦部会

4月14(日)、春一番のスポーツ観戦として「第88回早慶レガッタ」を8名で観戦応援しました。

ゴールの桜橋の川岸では早慶両校のプラスバンドやチアガールが対抗エイトのゴール到着前より応援合戦で大いに盛り上がりいました。また、目黒稻門会を始め新宿・杉並・練馬等各稻門会の応援メンバーも応援に駆けつけた田中総長と記念写真を撮るなど盛り上がりを見せました。



最終種目の対抗エイトは午後2時35分、新大橋上流より3750m上流のゴール桜橋に向けてスタートしました。スタートから早稲田が常に僅差の差をつけて終盤に入りましたが、言問橋に入る直前、慶應が

仕掛け、両艇が並んで言問橋を通過し、桜橋をもつれ合うように通過し、早稲田が頑張りわずか1秒37差で近年稀に見る接戦を制し、3連覇を達成しました。観戦後、浅草にある「三ちゃん横町」で漕艇部OBの井村会員の音頭で乾杯をして勝利の美酒に酔いしました。

4月29日（祝）、春の三大早慶戦（レガッタ、アメリカンフットボール対校戦）観戦第2弾として「第66回早慶アメリカンフットボール対校戦」を20名で観戦応援しました。

早稲田は37-13で快勝しました。



早稲田スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

ゴルフ部会

4月24日（水）第44回目黒稻門会ゴルフコンペを足柄森林カントリー倶楽部において開催しました。

参加者は15名。雨がぱらつく場面もあったが、プレーに支障なく、全員無事完走しました。

結果は、ネット81で、4人が首位にならぶ大混戦となり、慣例により年齢順で順位を決めました。

優勝牧野武夫さん、2位安居院文男さん、3位狩野俊夫さん（86でベスグロ）、4位吉野博明さんでした。

次回は、9月25日、26日にゴルフ部会創立20周年を記念して、一泊2プレーの大会を企画中です。



ゴルフ部会長 大杉邦雄

会員の広場

高齢化、介護人材不足、そしてロボット

加瀬裕子(人科学術院教授)



私は、現役の早稲田大学人間科学学術院の教員ではあるが、目黒稻門会に所属させていただいている。その理由は、私の専門が老年学という政策研究を含む実証的研究であり、目黒稻門会の皆様のご支援をいただいているからである。

哲学者チョムスキーは、民主主義国家の基準を情報コントロールの程度においている。国家としてのまとまりを官僚主義の観点から考えれば、情報をコントロールすることで世論の統一化をはかることが一番便利である。従って、逆に民主主義的な社会となるには、国民が現状を知り、政策を知り、意見を言えることが必要である。少数のエリート任せにすればよい老後が保障されると考えるのは、幻想である。私は、市民が施策について考え、意見を言い合う機会が大切であるという立場から、高齢者の在宅ケアや住宅問題などについてのセミナーや講演会を提案してきた。そのときに力になってくださったのが、目黒稻門会である。恩義ある目黒稻門会には出来るだけ各種活動に参加し、ご支援に報いたいと思っている。

さて、今回は、目黒の高齢化について概観せよとの原稿のご依頼であったが、まず、日本全体について考えよう。2007年に65歳以上の高齢者人口割合が21%を超えて、日本は超高齢社会となった。この少子化と人口現象については、実は40年前から予測はされていたことで、私が大学院生として初めて書いた論文が「人口の少子化と保育問題」であった。国立人口問題研究所（現国立社会保障・人口問題研究所）は、当時、すでに少子・高齢化問題を予測していたが、人口の再生產が可能なレベルで合計特殊出生率が下げ止まると楽観していた。1975年に合計特殊出生率は2.0を下回り、日本の総人口の減少は決定したが、その後も有効な策は実施されなかった。少子化や人口減少は選挙の争点にはならず、長期的な視点での政策がなかったことは問題と言えよう。

目黒区においては、高齢者人口割合は19.7%であり、人口が流入しているため高齢化は比較的進んでいない。しかし、流入する人口の多くは中高

年の女性一人暮らしであり、駅前に建つ高級マンションはファミリー用としては狭く、購入できる層もキャリア女性が多い。30年後には一人暮らし高齢女性の生活問題が生じるのではないかと、私は予測している。

さらに、緊急の問題は、介護を担う専門職の不足が深刻化していることである。区内のある特別養護老人ホームは、2階のユニット26床のうち20床を閉鎖した。介護保険の基準を満たす介護職員が確保できないからである。目黒区では介護職員1人につき最高5万円の家賃補助をしている。それでも人は集まらない。

「中学生が職業体験に来てくれるのですが、その理由を聞くと、クジで負けたと言うのです。親御さんは、パン屋さんがよかったね、とおっしゃったそうです」と施設長は嘆いていた。そういえば、10年前までは人間科学部の推薦入試に応募してくる高校生は、「早稲田で福祉を学びたい」と言ってくれる者が多かった。今では、1人もいない。介護が大変な仕事であり、その割には低賃金であることが知れ渡ってしまった感がある。頼りとするのは、外国人の労働力であるが、相変わらず低賃金労働として介護を位置づけるのであれば、私達の老後は明るいとは言えない。

しかし、低賃金労働であるにもかかわらず、私が知っている範囲では、日本の介護職員のレベルは高く、特に、認知症のケアではスウェーデンなどの介護職員にも引けを取らない。介護職員にはもっと自信を持って、自分たちの技術や実践を発信する場が必要ではないだろうか。そう考えて、私達は「ピアワーカーの会」（ピアとは、仲間という意味である）を人間科学部のある所沢市で月1回開催することにした。人間科学部の教員がボランティアで講義もするが、講義で提起された問題に対し、現場で何らかの形で行われている対策を見つけ、全体で話し合うことが目標である。これによって、教員の側も現実の問題を学ぶ機会をいただいている。

また、介護人材不足対策として行われていることに、ロボットやテクノロジーの活用がある。ロボットの活用には、これまで巨費が投じられてきているが、現場での実用には程遠いことは周知の事実である。私は最近、ロボットによる認知症高齢者のコミュニケーション促進についての研究プロジェクトを統括している。現場で役立つロボット技術を開発し、介護する家族や介護職員の負担を少なくすること、そして介護施設が先端技術を活用する職場となることで、介護職員への社会的認知を変えたいと願っている。

日本の技術 ATM



川崎秀一(昭和45年 法)

今日は皆さんがおなじみのATMのお話を致します。ところで、ATMは国内にどの位設置されているかご存知でしょうか?

金融機関(郵便局を含む)とコンビニ併せてなんと約19万台が稼働しています。我々の生活に定着した社会インフラと言えるのではないでしょか。

さて、このATMの歴史からお話を始めます。原点をたどるとこの機械は当初は現金自動支払機として銀行員の業務効率化の為に開発されたものでした。日本では昭和46年に初めて銀行に設置されました。

当時はキャッシュディスペンサー(CD)と呼ばれていました。日本に於いてはCD機能のみが使われた時期は非常に短い間で、間もなくして、現金自動預払機が預け入れと払い出し機能が一体となって登場しました。しかし最初は、預ける機能と支払いの機能が別々に独立していました。従って、支払い機能側では支払の為に準備した現金が無くなると、現金を補充する必要がありました。今でも外国では現金が無くなつて使用停止になつていているCDを見かけます。預入側では入金された現金が閉店まではATMの中に眠つてゐる状態が続いておりました。現金を補充する手間やお金を寝かせておくのはもったいないとの理由で何とか預けた現金をそのまま出金に回せないかとの要望が強くなりました。そこで入金した紙幣を出金に使うと言う新機能の開発を行う事となりました。各社競つて開発を行いましたが数々の努力の結果、OKIが日本で初めて紙幣還流型(リサイクル)ATMを昭和57年に世の中に送り出しました。もちろん世界で初めての事でした。

今では当たり前になっていますが、開発当初は技術的に多くの課題がありました。お札は紙ですから天気によつても伸び縮みしますし、財布に綺麗に入つている状態とポケットに入つてある状態とでも違います。また、新札と使用された札では状態が大きちがいます。これらの状態が違う札が入金用の口から纏めて入れられるわけですから機械の中で紙幣が詰まつてしまつたり、紙幣が破損したりと色々トラブルがありました。数々の課題を技術者の不斷の努力によって解決して利用者の皆様に安心して使って頂けるようになり、その後急速に普及して今では社会のインフラの一つになったと思っております。もちろん、ATMも機械ですから絶対に故障しないとは言えないのですが、各機器の稼働状況を

常に監視していて故障の前兆となるようなデータを把握すると予め壊れる前に予防的に保守をする方法も取られノンストップ運用の実現に貢献しています。

さて、国内市場の開発と並行して20年ほど前から海外に紙幣還流型ATMを売り込む為に努力を続けてきました。当時の世界の状況はCDが殆どで入金機器はありませんでした。ATMは一部あっても紙幣還流型はありませんでした。中国はCDのみが稼働しており、預け入れする人が窓口に並んでいる状態で、正にこれからのATM巨大市場と考え中国向の開発を進みました。ところがここで多くの難問に直面しました。例えば日本の紙幣は紙質も良く財布などでの保管状況も良いためATMに入金する際に比較的スムーズに読み込み、金種判別や真贋判定も容易ですが中国の元紙幣は紙質も柔らかく、また財布などに入れて持ち歩く慣習もなくポケットなどにくしゃくしゃにして持っていたものをATMに入れられるので、紙幣を投入されてから一枚一枚伸ばして読み込み、金種判定、真贋判定を行わなければなりません。中国は今でもその様ですが偽札が非常に多く、これを確実に排除する事が強く求められ(真贋判定技術も日本は卓越しております)色々な努力の結果市場開拓が出来て2010年頃から中国市場で急速に紙幣還流型ATMが全国に普及して行きました。

しかし3年前位からスマートフォンによるキャッシュレスの支払が急速に普及して現金の使用頻度が落ちて、ATMの需要は大きく落ち込んでいます。2015年頃から中国市場での日本勢の成功を見て海外勢もATMを売り込む努力をして来ましたが、当初は内臓部を日本メーカーから購入して対応していました。現在ではやっと自前の機器が開発され、日本勢は品質で突き放しを図るべく海外勢としのぎを削っています。

各国の紙幣は縦方向も横方向も各種まちまちですが、128金種の紙幣をいっぺんに入れてもスムーズに読み込む技術を開発しました。これは日本だけの技術です。これをベースにした新機種でロシア、インドネシア、マレーシア、ベトナム、インドなどに販売を行っています。因みに、ロシアの機種は一台のATMにルーブルとドルとユーロをまとめて投入しても扱う事が出来る為重宝して使われています(3種類のお金が流通しているのです)。ATMの歴史は昭和46年からです。従つてもう48年、半世紀を迎えようとしています。もう少し時間はかかると思いますが正に現金のない世の中が来ればその時にはATMはその役割を終える事になると思います。

目黒わが町自慢

中根 吉本政治（昭和41年 商）

中根は都立大学駅から自由が丘に向かった線路沿いに広がっており、右側が1丁目、左側が2丁目。街の形は駅を頂点とする逆三角形で、目黒通り（八雲）、平町、自由が丘、緑が丘に接している。

都立大学駅の所在は中根1丁目であるが、「都立大学」そのものは首都大学東京の開校とともに無くなり、隣の学芸大学駅と同様、存在しない大学名を付けた駅として名前だけ残っている。

駅の西側を横切る呑川本流緑道は、中根地区内は距離的には短いが、春になると目黒川に負けじと桜が咲き誇り、夜のライトアップは見応えがある。

中根の地名の由来は、「中」と「根」の二つに分けて考えられる。山の峰や尾根から平地に向かってなす斜面がまさに平地に届こうとするところが「根」で、住居に適した場所といわれる。「中」は江戸時代、目黒六ヶ所村の一つ袴村（ふすまむら）の小字名であったが、同村の中央に位置しているので「中」が付いたともいわれている（目黒区の資料による）。

かつて江戸郊外の農村であった中根は今では駅周辺は商店街に、そして「根」の斜面は閑静な住宅地になっている。私が中根に引っ越してきた2001年当時はまだ周辺に150坪を超す邸宅が多くあったが、今は分割・分譲され、しゃれた住宅地となっている。

中根の地形を生かした憩いの場といえば2丁目にある中根公園。大きな木々も多く、自然が味わえる公園で、高低差を利用した長い滑り台は子供達の人気。町内にはないが、中根を冠した施設として中根小学校（緑が丘1丁目）、中根住区センター（大岡山1丁目）などがあり、混乱しないように注意が必要。

目黒区内では決してメジャーではないが、とても住みやすい街です。



中根公園

目黒の銭湯巡り

オリーブスパ中目黒店

瀧谷瑠璃（平成22年 二文）

銭湯や温泉も好きだが、私の一番の好みは、サウナや岩盤浴のような汗をダラダラとかくような類のものである。ということで、今回は岩盤浴施設のあるオリーブスパ中目黒店へ行ってみた。

店内は南国のリゾート地のようなお洒落な作りになっている。ちなみに岩盤浴はもちろんのこと、アロママッサージやストレッチなどの施術メニューもある。

オリーブスパの岩盤浴は、通称マグマルームと呼ばれている。富士山の溶岩プレートを使用しており、部屋も完全個室。人目も気にせずリラックス＆発汗することができる。

80分の時間制限があることから、ついつい休憩なしでずっと岩盤浴をしていたくなるが、これは案外効果らしい。効率のよい岩盤浴の方法をお店の方に伺ってみた。

まずはうつ伏せになり、内臓を温める。内側から温かさを感じたら、仰向けになり背面を温める。体全体が暑くなってきたら、マグマルームを一旦出て休憩。こうして出たり入ったりを繰り返すほうが、より効率よくデトックスできるそうだ。合間にこまめに水分を補給するのも忘れずにしていただきたい。岩盤浴の前後には緑茶かハーブティーが、合間には水とコーン茶のサービスもある。

マグマルームで思いっきり汗を流し、日頃溜まった老廃物や鬱憤までもが一気に流れたような爽快な気分になった。ご新規様に限り優待を受けることができますので、ご利用されたい方は瀧谷瑠璃までご一報ください。

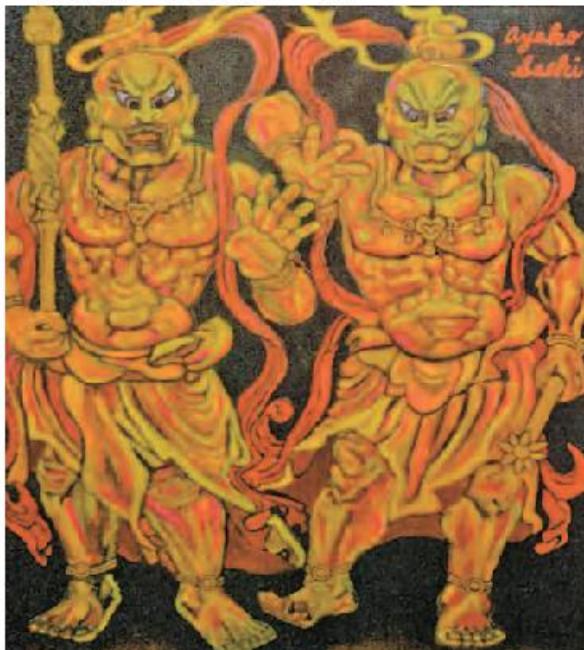


＜編集部注＞岩盤浴は銭湯ではありませんが、若い人を中心に利用者も増えており、番外編として掲載しました。

会員ギャラリー

「東大寺金剛力士阿吽像」 F50号 油彩

佐伯文子（昭和51年 文）



東大寺南大門にある金剛力士阿吽像をキャンバスに目一杯描き、金剛力士像が光り輝く感じで今にも動き出すかのように配色を工夫して描きました。

大仏を守護し邪気を払い清め厄除けをする忿怒の氣をみなぎらせている顔の表情と目の表現・口の表現を描き出せた時は、とても嬉しかったです。

新入会員



小林 博（昭和47年 法）
(目黒区鷺番在住)

小杉 哲さんの熱心なご勧誘により早稲田の息吹を久し振りに感じ入会させて頂きました。



田島清志（昭和52年 文）
(目黒区大橋在住)

ビジネスマン向けの出版社で、単行本、マネー雑誌、語学カセットブック、ビジネスビデオ、電子出版などの編集を25年。2000年秋に大病で入院、2002年に退社。療養生活を続けながら、フリーで編集・執筆を行い、休日には都内近郊の里山の保全活動を行うNPO活動に参加しています。目黒稻門会には、兄が既に参加していたので興味を持ちました。フリー稼業なので一人での活動が多く、社会体験が乏しくなったと自覚。皆さんから社会経験や知識を学びたいと思っています。



上杉 克（昭和47年 理工）

（横浜市都筑区在住）

入会の動機：大学への恩返し。卒業後、1972年4月丸紅（株）に入社。以降同社退社までの17年間、東京本社開発建設本部で勤務。国内外転勤なし。最後の仕事として、サッポロビール恵比寿ガーデンプレイス・プロジェクトを丸紅の専任担当として担当。1990年、フロスト インターナショナル コーポレーション（株）を設立。ダイレクトマーケティング分野、通信販売業務を展開、現在に至る。

新家族会員（敬称略）：小林真知子

校友会便り

—2018年度東京都23区支部大会に参加—

2019年3月17日（日）、2018年度東京都23区支部大会がリーガロイヤルホテル東京で盛大に開催されました。来賓の田中愛治総長他、総勢300名を越える校友が集まり、目黒稻門会から後藤会長はじめ、15人が出席しました。

第1部講演会は、本学OBの元内閣総理大臣、現在、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長、日本ラグビーフットボール協会名誉会長の森喜朗氏が「2019ラグビーワールドカップ、2020東京オリンピック・パラリンピック」について、招致から現在に至る迄の苦労話をユーモアを交えて話されました。

第2部の懇親会ではアトラクションとして練馬稻門会フォークソング愛好会を中心としてボビュラーフォークソング6曲の熱唱と応援部OB・OG指揮の下、全員で「早稲田の栄光」と「紺碧の空」を歌いました。お馴染みのワインと料理を楽しみながら他地区校友との交流を深めることができました。

最後は校歌斉唱で会場一体となって歌い上げる、支部長区輪番制最初の東京都23区支部大会は盛会の内に終了しました。
（金井 記）

